

IV. 先輩からのメッセージ

4期生 猪俣明彦（経済産業省）

12期生等のみなさん、御卒業おめでとうございます。

あえて説教くさいことを申し上げれば、これから社会に羽ばたくにわけですが、企業や組織だけでなく、海外をはじめ未知の分野にも是非手を伸ばしてみてください。

私は、現在米国に留学中ですが、インターネット・グローバル化でこれだけ狭くなった世界の中にあっても、はじめて米で生活してみると、様々な発見の連続で何度もカルチャーショックを受けました。同時に、英語の習得速度の遅さもたたって、「もっと早く若いうちに来ればよかったなあ」とも痛感しています。

組織・社会の中での仕事も大事ですが、それだけにとらわれず、吸収が早く経験できる若いうちに、いろんなことを経験することが、今後の人生の発射角度を高めると思って、いろんなことに手を広げてみましょう。

と、自分に反省させつつ、以上の言葉をお贈りさせていただきます。

10期生 松岡孝恭（大阪大学大学院経済学研究科）

第12期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

最近、「経済学を専攻している」と自己紹介すれば、「景気ははたしてよくなっているのか、所得格差はあるのか」と訊かれることが多くなりました。こうした問いかけに対して自分は一般論でしか答えられないのでいつも歯がゆい思いをするのですが、人々の関心が経済問題に集まっていることを強く感じます。所得再分配かそれとも経済成長か？といった思想的な大問題から、社会保障や若者の雇用、教育といった問題まで、いまどき経済学を知らないと理解できないことが山ほどあります。岩本ゼミで学んだことがこうした問題の有効な見取り図になると思いますので、卒業後も皆さんの関心にあわせて問いを深めていってください。

11 期生 吉田 晋也 (国際協力銀行)

12 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。一緒に勉強したときのことを振り返って思うことは、皆さんが真剣に、かつ本当に楽しそうにゼミの活動に取り組んでいたなということです。あのように複雑で難しいテーマに楽しく取り組めるということは、皆さんが優秀であることは勿論、大変良い仲間恵まれたことの証です。

卒業後、就職する人も、更に学業を志す人もいて、活躍の舞台は多様だと思いますが、岩本ゼミで得た「一つのことを深く考え、議論し、纏めていく力」、そして何より、ゼミ仲間を大切にし、自分の道を切り拓いていってください。今後、壁にぶつかることもあるでしょうが、そんなときは、まずディベート前夜の粘りを思い出して頑張り、それでも難しければすぐに岩本先生、同級生、先輩、後輩というゼミ仲間助け舟を求めてください。きっと前進する足がかりを得ることができるはずです。また共に酒を飲みながら、皆さんの活躍談を聞くことを楽しみにしております。